

◎特集1 / やまなしの教育基本計画

- シリーズ／わくわく読書活動推進指定校事業
- 明日の親向け家庭教育啓発資料「輝く未来に向かって」
- たくましいからだをはぐくむ健康・体力づくり実践事業
- 平成17年度公立高等学校入学者選抜学力検査成績調査結果報告
- 県立博物館の展示内容紹介⑥ ー屋外にも広がる体験学習の場ー
- らくがき……田富南小学校 志村雄二教諭
葦崎東中学校 渡部一司教諭
- 学校紹介／勝沼小学校・巨摩高校
- 総合教育センター情報 ー学校教育を支援する確かな情報発信源としてー
- 県立図書館／富士山についての情報の探し方
- 山梨の文化財／指定有形文化財（考古資料）
古柳塚古墳出土品六十八点
- 主な行事予定

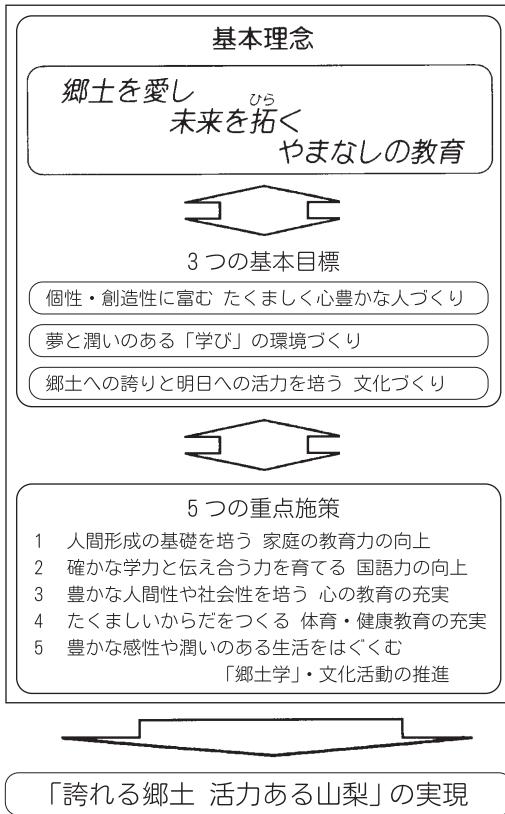
山梨県教育委員会



特集

やまなしの教育基本計画

「やまなしの教育基本計画」の体系



県教育委員会では、山梨の発展を担う人づくりに向けて、平成十六年から平成二十五年までの十年間の教育計画として『やまなしの教育基本計画』を策定しました。

この計画は、「誇れる郷土 活力ある山梨」の実現を目指して策定された『山梨県長期総合計画 創・甲斐プラン21』の教育部門計画であり、「郷土を愛し 未来を拓く やまなしの教育」を基本理念とし、その実現のために、「個性・創造性に富む たくましく心豊かな人づくり」「夢と潤いのある 学びの環境づくり」「郷土への誇りと明日への活力を培う文化づくり」の三つを基本目標として掲げ、各種の教育施策を展開するものです。

また、これまでに以上に掲げた施策の実効性を上げるために五つの重点施策と達成目標値を掲げるなど、具体的な指針を設定しました。

「やまなしの教育基本計画」の指標一覧

① 一人一人の学びを実現する生涯学習の推進

指標項目		基準値 (H14)	目標値 (H25)
県民の生涯学習に対する関心度	まなびネットワークの会員数	527人	2,400人
	キャンパスネットやまなしの入学者数	1,298人	3,000人

② 明日を担う子どもをはぐくむ家庭・地域・学校の連携の推進

指標項目		基準値 (H14)	目標値 (H25)
開かれた学校づくりへの取組状況	ホームページを開設している学校率	53.5%	100%
	公立小中学校の「学校評価システム」導入率	0%	100%
青少年関係施設を利用し様々な活動を行っている状況	八ヶ岳少年自然の家などの青少年関係施設の利用者数	630,648人	733,000人

③ 個性を生かし、未来を拓く知恵と豊かな心をはぐくむ学校教育の充実

指標項目		基準値 (H14)	目標値 (H25)
「確かな学力」の育成状況	公立中学校生徒の基礎学力修得率	国語 80.7% 数学 79.4% 英語 77.8%	100%
小学校段階における英語に親しむ環境づくりの取組状況	公立小学校で外国人との英会話を延べ10回以上実施している学校率	67.6%	100%
公立小中学校における不登校の状況	児童生徒1千人当たり不登校者数	11.8人	10人
児童生徒の体力の状況	新体力テストの成績で全国平均を上回る種目率	8.3%	100%
IT教育の充実度	コンピューターを使って授業ができる教員率	51.2%	100%

④ 健康で明るい生活を支える豊かなスポーツライフの実現

指標項目		基準値 (H14)	目標値 (H25)
生涯を通じてスポーツに親しむことができる環境の充実	総合型地域スポーツクラブの設置市町村率	3.2%	100%
スポーツの指導体制の充実度	スポーツリーダーバンクに登録した有資格指導者数	958人	1,150人
競技スポーツの振興の成果	国民体育大会の入賞者数	97人・団体	105人・団体

⑤ 心に潤いと豊かさをもたらす文化の振興

指標項目		基準値 (H14)	目標値 (H25)
身近で芸術文化に親しむことができる機会の充実度	公立文化ホールの自主事業開催回数	191回	250回
県民の自主的・積極的な芸術・文化活動の状況	県民文化祭への県民の参加率	10.1%	15%
県民が守り伝えていくべき文化財の状況	国、県、指定文化財数	633件	688件

1 一人一人の学びを実現する生涯学習の推進

ITを活用した生涯学習環境づくり

○生涯学習情報提供事業費 ・「やまなしまなびネットワークシステム」運営費	7,441千円	生涯学習文化課
○図書館電算費 ・図書館電算システム運営費 ・図書館情報ネットワークシステム運営費	51,660千円	社会教育課

多様な生涯学習機会の提供

●キャンパスネットやまなし運営費	1,661千円	生涯学習文化課
○山梨ことぶき勤学院運営費	29,176千円	社会教育課
○◎博物館事業費 ・展示事業、教育・交流活動事業、調査・研究事業	27,179千円	学術文化財課

生涯学習施設の充実

○県立博物館建設費 〔参考〕 ・建設工事 平成14年度～16年度 総額 6,400,000千円 ・展示工事 平成15年度～17年度 総額 2,047,276千円	956,508千円	学術文化財課
○◎新たな学習拠点整備推進費 県民の様々な学習活動を支援するため、県立図書館と生涯学習推進センターを一体化した集客・交流機能を有する新たな学習拠点をPFIにより整備する。	132,629千円	企画課

「やまなしの教育基本計画」では、基本目標を達成するため、五つの具体的施策の方向を示しています。ここでは、その五本の柱に沿った平成十七年度の主要事業を紹介します。
なお、教育委員会のホームページに施策体系（関連事業一覧）、事業概要などを掲載していますので、ご覧下さい。

平成十七年度主要事業の概要



県立博物館
(平成17年10月15日開館予定)

2 明日を担う子どもをはぐくむ家庭・地域・学校の連携の推進

家庭教育における学習機会の提供と普及・啓発 家庭教育における相談体制の整備とネットワークづくりの推進 地域で子どもをはぐくむ環境づくり

●家庭教育推進事業費 ・「父親を考える」フォーラムの開催 ・◎子育て相談総合窓口設置事業 ・◎子育て支援コーディネーター養成講座	16,835千円	社会教育課
○青少年教育推進事業費 ・フロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」 ・高校生やまなしネイチャー体験事業 ・少年海外研修事業「フィール コーリア21」	6,313千円	社会教育課
○地域教育推進事業費 ・県立施設文化開放講座 ・「声かけ、あいさつ運動」推進事業 講演会及びパネルディスカッション	1,078千円	社会教育課



「フィール コーリア21」
韓国忠清北道・景福宮にて

地域の教育力の活用と連携

○いきいき教育地域人材活用事業費 地域の人材を特別非常勤講師として学校に派遣し、地域と一体となった開かれた学校づくりを推進する。	6,953千円	義務教育課
---	---------	-------

3 個性を生かし、未来を拓く知恵と豊かな心をはぐくむ学校教育の充実



豊かな心をはぐくむ教育の充実

- 命の大切さを学ぶ体験活動推進事業費** 1,240千円 義務教育課
子どもたちに自他の命を大切にする心や他人を思いやる心をはぐくむため、命の大切さを学ばせるのに有効な体験活動を実施する。
- 地域とともにハグクム豊かな心の育成推進事業費** 5,172千円 義務教育課
学校と家庭、地域が相互に連携して、基本的な社会規範、生活習慣等の定着や思いやりの心の醸成など道徳教育の充実を図り、子どもたちの豊かな心を育成する。
- いじめ・不登校対策事業費** 135,543千円 義務教育課
 - ・学校不適応児童生徒対策推進事業
 - ・スクールカウンセラー活用事業
 - ・いじめ・不登校ホットライン事業 等

「確かな学力」の向上と個性を生かす教育の充実

- 学びの意欲向上推進事業費** 1,000千円 義務教育課
学習状況の評価を生かした指導内容・指導方法等の工夫改善を行い、個に応じた指導の一層の充実を図るための研究・実践を推進する。
- 「かがやき30プラン」の推進** 義務教育課
- 心をたがやす国語力向上推進事業費** 1,380千円 義務教育課
学習の基盤となる児童生徒の国語力の向上を図るため、拠点校を指定し、実践研究を行う。(12校)
- 知のパイオニア推進事業費** 1,555千円 高校教育課
 - ・確かな学力向上推進事業
 - ・個に応じた指導の研究、実践等
 - ・国語力育成推進事業
 - コミュニケーション、プレゼンテーション能力向上のための研究、実践等
- 豊かな未来をはぐくむ高校教育推進事業費** 40,000千円 高校教育課
各校が生徒や地域の実態を踏まえ、創意工夫した特色ある教育活動を行う。



時代を展望する教育の推進

- レッツ・チャレンジ小学生英語活動推進事業費** 3,232千円 義務教育課
小学校の教育課程の中に英語活動を取り入れ、外国の生活や文化等に親しみながらコミュニケーション能力の育成を図る。(推進校 12校)
- ふれあい福祉・ボランティア活動推進事業費** 1,946千円 義務教育課
学校と家庭や地域が連携し、子どもの発達段階に応じた福祉・ボランティア活動を推進する。(推進地域 2地域、推進校 6校)
- 専門高校情報教育機器更新事業費** 101,100千円 学校施設課
専門高校の情報教育機器を新学習指導要領や各種先端技術に対応できる機器に更新する。
- 高校生インターンシップ推進事業費** 789千円 高校教育課
望ましい職業観・勤労観を育成するため有効な各校のインターンシップを支援する。

健康や体力をはぐくむ教育の充実

- 学校体育振興費** 14,394千円 スポーツ健康課
 - ・学校体育指導者の資質向上事業
 - ・運動部活動外部指導者推進事業
 - ・学校体育外部指導者推進事業
 - ・**「健康・体力づくり」実践事業**

特別支援教育の充実

- 特別支援教育推進費** 4,069千円 高校教育課
 - ・県心身障害児適正就学推進委員会の開催
 - ・障害児のためのプレスクール・システム
 - ・自作教材・教具開発等
 - ・**特別支援教育推進体制整備事業**
- 医療的ケア支援事業費** 267千円 高校教育課
医療的ケアに関する研修会及び課題等を検討するための協議会を開催する。

魅力ある高校づくり

- 新しい高校づくり推進事業費** 5,893千円 新しい高校づくり推進室
本県における高校づくり全体の推進方策について検討し、魅力ある高校づくりを推進する。
 - ・総合学科の設置推進
 - ・中高一貫教育校の設置推進
 - ・教員研修事業の実施
 - ・高校ガイドブックの作成
 - ・高校改革アンケート調査の実施
 - ・高等学校入学者選抜制度審議会の開催



富士北稜高校ビジネス実習室

学校施設の充実

- 高校施設整備費 3,042,406千円 学校施設課
県立高校の施設整備等教育環境の整備充実を図る。
・老朽校舎等改築整備（吉田高校）
・総合学科高校施設整備（富士北稜高校）
・高校施設整備（北杜高校他9校建物耐震診断）等
- 高等学校教材設備近代化事業費 163,056千円 学校施設課
高等学校教材教具設備基準、計画教材設備の更新計画に基づき、学校の実態に応じた近代的な教育機器や教材器具の整備を図る。
- 養護学校等施設整備費 2,130,035千円 学校施設課
特殊教育の充実を図るため、施設整備の推進を図る。

4 健康で明るい生活を支える豊かなスポーツライフの実現

参加機会の充実

- 総合型地域スポーツクラブの育成・支援事業費 10,941千円 スポーツ健康課
市町村等の総合型地域スポーツクラブの育成・支援を行う。
- 県スポーツレクリエーション祭実行委員会助成金費 17,460千円 スポーツ健康課
・第17回山梨県スポーツ・レクリエーション祭開催費
・第18回全国スポーツ・レクリエーション祭選手派遣費

スポーツ環境の充実

- スポーツ施設改修事業費 671,397千円 スポーツ健康課
・小瀬スポーツ公園野球場改修費（夜間照明、電光掲示板の整備）
・富士北麓公園球技場改修費（芝生の張替等）

競技力の向上、指導体制の充実

- 競技力向上費 129,744千円 スポーツ健康課
競技スポーツの振興を図るため、競技人口の拡大と競技水準の向上を目指し、選手の育成強化を図る。
- 競技者一貫指導体制推進事業費 6,600千円 スポーツ健康課



5 心に潤いと豊かさをもたらす文化の振興

芸術文化鑑賞機会の充実

- 優秀芸術鑑賞事業開催費 33,583千円 生涯学習文化課
芸術文化水準の一層の向上を図るため、優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供する。
- 美術館事業費 119,109千円 学術文化財課
・企画展「野口小瀧と近代南画展」、「描かれた富士山展」、「ジャン・コクトー展」等
- 博物館事業費 66,718千円 学術文化財課
・開館時企画展「やまなしの道祖神祭り」
・開館記念特別展「よみがえる武田信玄の世界」
- 考古博物館事業費 19,117千円 学術文化財課
・特別展「縄文人の暮らし～海の民と山の民～展」
- 文学館事業費 55,984千円 学術文化財課
・企画展「こどもの文学・こどもの文化展」、「山の文学展」

文化創造活動への支援

- 県民文化開催費 15,239千円 生涯学習文化課
「くらしに文化が根付くやまなし」の実現を目指して、文化活動への参加と交流を促進し、個性あふれる文化の創造のため、県民総参加の「県民文化祭」を開催する。

文化財等の保存と活用

- 県指定史跡甲府城址保存活用等検討事業費 6,600千円 学術文化財課
甲府城址の保存活用について、天守閣復元の可能性を中心とした調査検討を行う。
- 埋蔵文化財学習活用事業費 2,328千円 学術文化財課
学習ビデオの作成、考古資料の貸出し、体験発掘の実施等
- 「山梨県史」編さん費 58,139千円 県史編さん室
- 文化財保存事業費補助金 119,317千円 学術文化財課
- 埋蔵文化財調査費 152,708千円 学術文化財課



●は「5つの重点施策」に関する事業

シリーズ

わくわく読書活動推進指定校事業

— 義務教育課 —

■事業の目的

今、子供たちの活字離れが急速に進んでいるといわれています。こうした現状にあって、本を読む子供たちの育成が本県においても課題となっています。学校教育においても、学年が上がるにつれて読書量が低下しているという現状があります。そのような中で、自ら主体的に本を読む児童生徒の育成や、児童生徒と学校図書館を結ぶための指導の在り方が問われています。児童生徒に、もっと身近に、また多くの本にふれさせ、本にひたらせ、本を読むことでわくわくする楽しさや喜びを味わわせていくことが必要です。

また、平成十五年四月から、十二学級以上の学校には司書教諭の設置が義務づけられることになりました。このようなことから、司書教諭の在り方について協議したり、学校図書館を中心とした読書活動の在り方を研究したりすることも重要な課題となりました。

そこで「自ら学び、自ら本を読む子供たちの育成とそのため司書教諭の在り方」などを、具体的に検討し実践する研究校を県下に四校指定しました。「わくわく読書活動推進指定校事業」は、児童生徒一人一人が本にふれ、本を使って調べ、読み親しみ、一人一人の読書量・読書力の向上を目指した、創意工夫ある取組を実践・検証することを目的とした事業です。

■事業の内容

指定校は次の四市町の四小中学校で、指定期間は平成十五年と十六年の二年間でした。

南部町立小学校
北杜市立小学校
増穂町立増穂中学校
韮崎市立韮崎東中学校

指定校には、次のようなことに関して、具体的な取組をしていただきました。

○読書アドバイザー（教師・司書教諭・学校司書・保護者）による、児童生徒一人一人への図書選択への支援を日常的に行う等、児童生徒に本への興味関心をもたせるための、また実際読むようにさせるための様々な工夫をする。

○家庭における読書の重要性をアピールするために、学校が「講演会」を開催したり「子ども読書フォーラム」を企画したりするなどして、児童生徒及び保護者に向けての理解と啓発を図る。

○保護者などによるボランティア導入をはじめ、子供のための学校図書館運営を行い、土・日の児童生徒の読書活動の充実を視野に入れた、学校図書館・公共図書館の利用・活用などについて、学校・保護者・公共図書館の三者の協働の方法を試案としてまとめる。

■指定校の実践例

指定校では、自ら本を読む子供の育成や司書教諭の在り方に関して、各校の実態に即しながら、様々な取組を展開していただきました。

全校的な取組として、朝の十分間読書、学級文庫の設置、ブックトーク、アニメーション、先生方のおすすめの本の紹介、読書表彰、読書貯金ノート、朗読暗唱発表会、校内読書週間の設置、読書環境の整備（廊下にベンチ設置など）がおこなわれています。また、地域・家庭との連携の取組として、親子読書、保護者やボランティアによる読み聞かせ、地域の朗読サークルによる朗読鑑賞会や大型紙芝居等の開催、隣接公共図書館の利用、図書便りの発行などが行われています。

次に、四つの指定校の具体的な取組の様子をご紹介します。

■南部町立栄小学校

全校職員が一丸となって、児童たち一人一人の読書量・読書力の向上を目指し、実践的研究を進めてきました。特に、読書活動推進連絡協議会での意見を参考に、地域・家庭・学校が連携して進めることで幅広い見地から児童たちの読書活動の支援にあたることができました。町立図書館の協力や、PTAボランティアによる

「読み聞かせ会」も実施し、児童たちは多くの本にふれることができました。また、県国際課国際交流員を招いての4カ国の母国語を使った読み聞かせの交流会もおこないました。第二図書館の整備も進み、児童たちが下校前のひとときを読書で過ごす環境も整ってきています。



■北杜市立泉小学校

職員の意識の高まりが児童の意欲につながっています。朝の十分間読書、読書貯金ノート（読んだ冊数を記入）、大泉金田一春彦記念図書館の利用、親子読書の推進、読書歴の作成、雨の日の紙芝居などの実践や、校内読書週間（秋の二週間）を設定し、教師のお薦めの本の紹介や、読書クイズなど盛りだくさんの活動をおこないました。



また、ボランティアグループをお招きして、読み聞かせや、大型紙芝居、お話し会などもおこないました。多くのボランティア団体を招くことにより、新しい雰囲気や技法で本の良さを学ぶことができました。また、手作りベンチを製作して廊下に設置しました。これらの取組の結果図書室の利用者が増え、読書好きの児童がとて多くなってきました。

■増穂町立増穂中学校

本年度は昨年度に引き続き、朝読書の時間を設定したことや、4回の読書集会を実施したことで生徒の読書意欲が更に高まりました。図書室を利用する生徒が増え、本の貸し出し冊数も一人平均約4冊以上増え、十九・三冊になりました。また日常の生活の中で、休み時間に本を読んでいる生徒の姿や友だち同士で本を紹介し合ったり、本に関する話をする生徒も増えてきました。更に、読書



集会での教師の本の紹介や講師の講演や生徒の発表など内容を充実することができました。生徒の評判もとてもよかったです。この2年間で取り組んだこの事業は本校にとって大きな成果となりました。

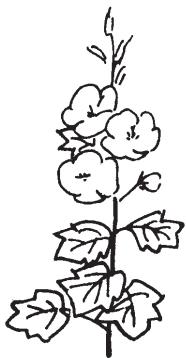
■葦崎市立葦崎東中学校

「よい本」を読むことをとおして、日本語のもつ美しさや伝統・文化に少しでも親しませ、今後の読書活動に活かしていきたいという願いのもと研究を推進してきました。取組例として、朝の十分間読書をおこなったり、図書集会をお

して読書の楽しさを知らせ、生徒同士で本の紹介をし合ったりしました。また夏休みに親子読書をおこない、親子で感動や意見の交換をして互いを深く理解する手だてをしました。その他、



講師を招いて「甲州弁による民話」を聴いたり、朗読サークル「なみの会」の方々による朗読鑑賞会を開いたりしました。本校は読書好きの生徒が多く年間約一万三千冊の貸出があります。これは、学校司書と司書教諭が連携する中で、すべての教職員が協力し、読書活動に力を入れてきた成果だと考えています。



明日の親向け家庭教育啓発資料

「輝く未来に向かって」の発行について

— 社会教育課 —

県社会教育課では、中・高校生向けに、明日の親向け家庭教育啓発資料「輝く未来に向かって」を作成しました。

「家庭教育力の低下」が叫ばれ、「少子化」が急速に進む現在、「明日の親となる中・高校生に、青少年期の早い段階から、親としての資質を育てるための意識啓発を図ることが重要である。」という認識の下、イラストレーターを含む五人の方に、執筆をしていただきました。

対象が中学生と高校生であるので、子育てとか、家庭に対する考え方にも年齢差等による相違があることを踏まえて、受け入れやすい内容・表現とし、大きく四つの項目を立てて構成しています。

- ① 「今、自分は…今の自分を見つめて」
- ② 「人との関わり」
- ③ 「これからの自分、十年後の自分を見つめて」
- ④ 「ともに生きるということ」

①で、今の自分について考えてみる。
たとえば、自分は、どんな人と友達になりたいか、自分は、どんな人と友達になりたいか、また、友達の目に自分はどうか映っているかなどを考え、自分を知ることにについて。

②で、様々な視点から「人との関わり」につ

いて考えるなか、たとえば、「親離れ」「子離れ」も子どもが親から離れて独立していくための関わりのひとつなど、人と人との「関わる」ことの意味について。

③で、十年後の自分の姿や生活を具体的に描くなかで、たとえば「本当に自分を大切にしてくれる人」とはどんな人か、そんなパートナーとの生活も選択肢として考えられること、さらにどんな仕事に就いているかなど、未来を見据えた生き方について。

④で、「家族とは」、「人としての一生」を考えると、人やおして、「人が育てられ、育てる」ということや「ともに生きること」の意味などについて。

以上のような内容になっています。

本冊子は、まさに次代を担いこれからの日本を支える中・高校生を対象にした、将来の自分を見つめ、人としての生き方を考えるための資料です。

学校での家庭科、保健体育科などの教科の学習、「総合的な学習の時間」や道徳、学級活動での生き方学習などの副教材、家庭での親子の話し合いやPTA懇談会、さらに公民館等で実施する中・

高校生向けの子育て理解講座など、さまざまな機会に活用していただきたいと思えます。

